

角膜内皮再生医療製品候補 AE101 の共同開発契約締結 及び第三者割当増資による Series B 資金調達の実施

アクチュアライズ株式会社（京都府：代表取締役社長 杉岡郁、以下アクチュアライズ）は、アクチュアライズの開発品候補 AE101 について、株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所（代表取締役社長：日高有一、愛知県名古屋市、以下「DWTI」）と日本における共同開発契約を締結し、また、第三者割当増資による Series B の資金調達を実施いたしましたのでお知らせいたします。

AE101 は、水疱性角膜症を適応症とし、培養ヒト角膜内皮細胞と ROCK 阻害薬を混合した新規細胞注入療法として、開発を進めてきました。この度、アクチュアライズと DWTI は AE101 の開発を促進し、早期に患者の皆様へ届けるため、共同で開発を進めることになりました。

本契約では、アクチュアライズと DWTI が AE101 の日本における開発を共同で進めることと、AE101 の開発資金を DWTI が負担すること、AE101 から得られる一切の収益はアクチュアライズと DWTI とで分配されることを規定しております。

両社は、今後日本において臨床試験を進める予定で、早期の製造販売承認取得を目指してまいります。

また、本日、第三者割当増資（Series B）も行っており、合計 3.3 億円を調達いたしました。引受先は事業会社二社であり、そのうちの一社は、本共同開発先の DWTI であります。今回の資金調達は、2019 年 10 月に発表した第三者割当増資に続く資金調達であり、Series B については、今後数か月の内に追加の資金調達を行うことを計画しております。

当社は、角膜内皮疾患全般に対する再生医療とフックス角膜内皮ジストロフィに対する薬物治療など、新規の眼科治療を開発する同志社大学発のベンチャー企業です。角膜内皮は角膜を透明に保つために不可欠ですが、障害されることで角膜が白く濁り重症の視力障害を生じます。現在の標準治療は臓器移植である角膜移植ですが、ドナー角膜が世界的に不足しており新しい治療法が開発が望まれています。今回調達した資金により、特に AE101 の研究開発を進め、角膜内皮再生医療を安定した品質で早期事業化することを目指します。また、フックス角膜内皮ジストロフィは角膜内皮疾患の一つで、特に欧米の 40 歳以上の約 4% が罹患する疾患であり角膜移植の原因の第一位（40%）を占めることから重要性の高い治療薬の開発対象です。アクチュアライズは、フックス角膜内皮ジストロフィを対象とした点眼薬の開発も行っています。

アクチュアライズ株式会社（本社：京都府京田辺市）について

アクチュアライズは、小泉範子および奥村直毅（ともに同志社大学生命医科学部医工学科教授・眼科医）の研究成果によって設立されたバイオベンチャーです。フックス角膜内皮ジストロフィを代表とする角膜内皮疾患の薬物治療および再生医療の研究開発を行っています。詳細につきましては、アクチュアライズ株式会社ウェブサイト www.actualeyes.co.jp をご参照ください。

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所（本社：愛知県名古屋市）について

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所（DWTI）は、「日本発の画期的な新薬を世界へ」を理念とし、より有用な医薬品を早期に患者の皆様を提供することを目指しているバイオベンチャーです。キナーゼ阻害剤の創製に強みをもち、自社創製の上市薬を保有しております。現在、眼科領域に注力し、患者様の最適な治療の選択に貢献できるよう取り組んでおります。詳細につきましては、DWTI ウェブサイト www.dwti.co.jp をご参照ください。

本件に関するお問い合わせ先

アクチュアライズ株式会社

取締役・管理部 加藤正彦 masahiko.kato@actualeyes.co.jp